

桜島における火山・防災教育に関する実践的研究

Practical study about the education of volcanology and disaster at Sakurajima volcano

福島 大輔[1]

Daisuke Fukushima[1]

[1] 京大・防災研・火山センター

[1] SVRC, DPRI, Kyoto Univ.

火山防災にとって最も重要なことは、火山を知り、災害のリスクを認知することであろう。しかし、現状ではいくつかの問題がある。例えば、(1) 災害に対する住民の認識が甘い、(2) 学校での火山・防災教育は十分とは言えない、(3) 住民等が自ら火山や災害について学ぶチャンスがない、などである。このような問題点を解決するためには、火山や防災に対する関心を持ってもらうための活動や、正確な知識・情報を伝える環境を整えることが重要であろう。しかし、火山や防災の知識・情報をストレートに伝えようとしても、一般の人々の興味を引きつける事は難しい。

そこで本研究では、桜島をまるごと博物館と考え、現地で本物を見て、体感して、楽しみながら火山や防災について学ぶためのシステム（エコミュージアム）を構築することを試みている。具体的には、(1) 現地で本物を見ながら学ぶ「体験型ツアー」の実施、(2) 講演会の実施や、小学校への出前授業、総合学習とのタイアップ、(3) インターネットを使って桜島の噴火や災害の歴史を紹介する他、地震・火山・気象・防災情報をリアルタイムで発信する WEB サイトの作成、などである。これらの活動の中で工夫している点は、火山や防災を前面に出してストレートに伝えるのではなく、身近なテーマからの間接的なアプローチである。桜島の自然や文化は、噴火や災害と結びついている。温泉や桜島大根、植物、観光といった身近なところを入り口に、もう一步踏み込んだところまで知ってもらうよう配慮している。具体的には、桜島大根の種まきを体験しながら畑の土に軽石が混じっていることを体感してもらい、大噴火でどのくらいの大きさの軽石がどこまで降ったのかを解説した。また、植物観察会では大正溶岩の上を歩きながら草花や樹木を観察し、同時に溶岩地形の起伏を体感しながら溶岩流についても解説した。

本研究の特徴は、これまで研究者や行政サイドの視点で行われてきた火山や防災を前面に出した教育・普及活動ではなく、一般の人の視点に立った楽しく学べる環境を整える点にある。身近なテーマから間接的にアプローチするため、伝えることのできる知識や情報は少ない。しかし、一般の人が火山や災害に対して関心を持つきっかけとしては十分な効果が期待できよう。火山や災害に関する正しい知識を直接的に訴えたとしても多くの知識人が育つとは思えない。むしろ身近な部分と火山や災害との結びつきを伝え、関心をもつ人々を増やすことの方が重要なのではないだろうか。